

一般シンポジウムS1 「原がん遺伝子の進化による役割の変化」

時間:10:00-12:00

会場:301会議室

提案者:神崎秀嗣(秀明大学看護学部)

シンポジウムの趣旨:

c-Myc・Runxのような原がん遺伝子、p53やRbのようながん抑制遺伝子は種を越えてショウジョウバエほかでも発現している。さまざまな増殖・組織分化に関与しており、多面性を有している。API(c-Jun, c-Fos)、Runx, Relはポリオーマウイルス(Py)ゲノムの複製を亢進させている。また驚くべきことにがん抑制遺伝子のp53も同様であった。SV40、BPVでも転写調節因子により、そのゲノム複製は制御されている。一方、ヒトにおいても、c-Myc・Runxはがん化にも深く関与しているだけでなく、染色体の複製にも関与している。このシンポジウムでは原がん遺伝子の進化による役割について考察する。まず原がん遺伝子である転写調節因子の多様な細胞内での機能について説明する。次に、真核生物での原がん遺伝子の染色体複製についての知見、さらに発生分化と転写調節因子の関連についてショウジョウバエをモデルとした解析結果、そして、最後に転写因子RUNXの「がん遺伝子」としての役割について、最新の知見も含め講演する。

講演者と発表タイトル

10:00-10:30 神崎秀嗣(秀明大学看護学部)

原がん遺伝子はウイルスゲノム複製を制御する~ポリオーマ(Py)ウイルスを中心に~

10:30-11:00 神崎秀嗣(秀明大学看護学部)

原がん遺伝子のショウジョウバエでの役割

11:00-11:30 神崎秀嗣(秀明大学看護学部)

出芽酵母のDNA複製開始のエピジェネティックな制御

11:30-12:00 大谷昇平(長崎大学・大学院医歯薬学総合研究科)

「転写因子RUNXの「がん遺伝子」としての役割」